川崎市公共施設白書（分析編）

【令和３（2021）年度版】

令和６（2024）年３月

川崎市

目次

分析編について……………………………………………………………………1
第１章　公共建築物の大分類ごとの過年度比較……………………………………3
１　延床面積……………………………………………………………………………3
２　利用状況……………………………………………………………………………4
３　コスト状況（１㎡あたりのコスト状況）…………………………………………5
第２章　市民利用施設の中分類ごとの過年度比較…………………………………6
１　延床面積……………………………………………………………………………6
２　利用状況……………………………………………………………………………8
３　コスト状況（１㎡当たりのコスト状況）…………………………………………10

分析編について

分析編は、資産保有の最適化に関する取組の参考となるよう、公共建築物の延床面積、利用状況に焦点を当て、過去３年度分のデータを対比し分析を行っています。第１章では、公共建築物全体が俯瞰できるよう大分類ごとに分析を行い、第２章では、各施設分類の特徴や現状などについて、より分かりやすいものとするため、市民の皆様に馴染みの深い施設（市民利用施設）を抽出し、中分類ごとに分析を行いました（次ページ参照）。

本書の構成イメージ

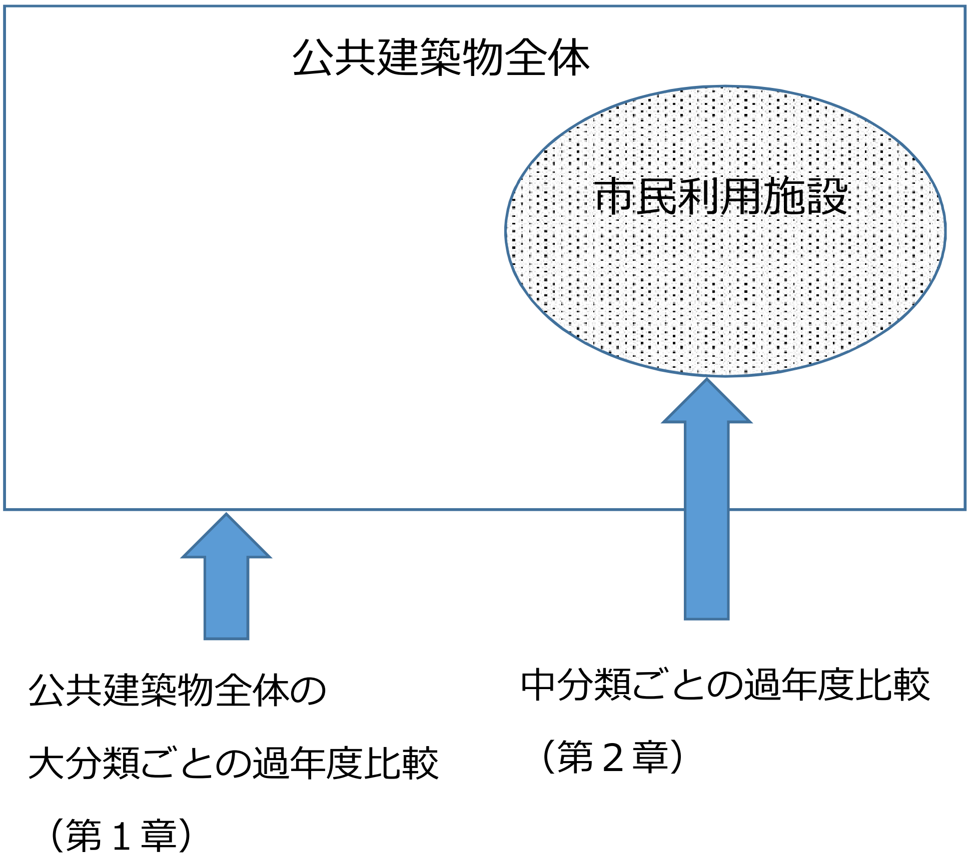


表　公共建築物（市民利用施設）の中分類別施設例

大分類	中分類	主な施設名
市民活動・社会教育施設	市民活動施設	市民館・労働会館・総合福祉センター・総合自治会館
	図書館	図書館
	体育施設	スポーツセンター・球技場・プール
	青少年施設	子ども夢パーク・青少年の家・黒川青少年野外活動センター・八ヶ岳少年自然の家
	文化施設	川崎シンフォニーホール・青少年科学館・藤子・Ｆ・不二雄ミュージアム
	複合施設	スポーツ・文化総合センター（カルッツかわさき）・川崎市民プラザ
	その他社会教育施設	かわさきエコ暮らし未来館・王禅寺エコ暮らし環境館
商業・産業施設	競輪施設	川崎競輪場
	産業振興施設	川崎エコタウン会館・農業技術支援センター
福祉施設	わくわくプラザ	わくわくプラザ
	こども文化センター	こども文化センター
	地域子育て支援センター・児童相談所・その他児童福祉施設	地域子育て支援センター
	老人いこいの家・老人福祉・地域交流センター	老人いこいの家・老人福祉センター
	その他老人福祉施設	かわさき総合ケアセンター・高齢社会福祉総合センター
	障害者福祉施設	リハビリテーションセンター・障害者情報文化センター
	その他福祉施設	福祉パル・総合研修センター
庁舎施設	支所・出張所	麻生区役所柿生分庁舎
	事務所・事業所	公文書館
環境衛生施設	医療施設	休日急患診療所・歯科保健センター
	墓園・葬祭場	かわさき南部斎苑・かわさき北部斎苑
	その他環境衛生施設	動物愛護センター
その他	その他消防施設	消防会館
	防災拠点等	大師河原水防センター

（注１）市民利用施設とは、公共施設白書の年間利用者数に数値が存在する施設を指します。
（注２）大分類「その他」は「消防施設」、「上下水道施設」、「交通施設」、「防災施設」、「駅周辺施設」を含みます。

第１章　公共建築物の大分類ごとの過年度比較

１　延床面積

令和元年度と令和３年度を比較すると、施設総量は約 0.4%の増加となっています。

①学校施設

学校施設については、マンション建設や宅地化が進む地域の児童数増加及び３５人学級の導入によるクラス数の増加により、校舎増築を行った関係で増加傾向にあります。

②市営住宅

市営住宅の管理戸数については「第４次川崎市市営住宅等ストック総合活用計画」に基づき、当面は引き続き維持することとしています。延床面積については、市営住宅の建替に伴う解体工事の進捗状況により、減少となっています。

③庁舎等建築物

庁舎等建築物については、施設総量は増加傾向となっています。施設分類では、市民活動・社会教育施設が、等々力球場の整備等により約２．６%増加しています。福祉施設では、特別養護老人ホーム「夢見ヶ崎」及び「すみよし」を譲渡・民設化したことなどにより、２．７%の減少となっています。

図　学校施設、市営住宅、庁舎等建築物の延床面積の過年度比較（令和４（2022）年３月末時点）

図　庁舎等建築物の大分類別延床面積の過年度比較（令和４（2022）年３月末時点）

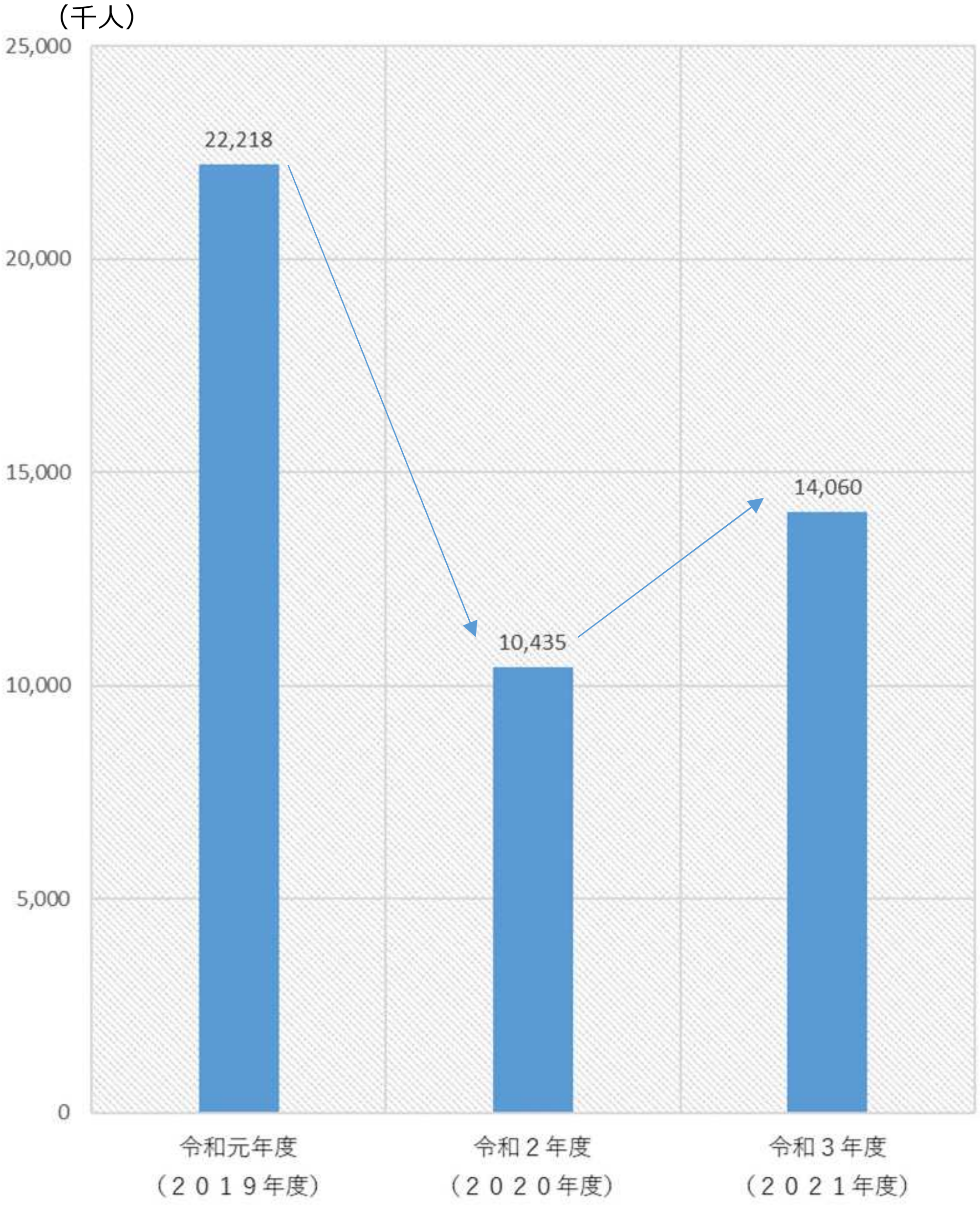
（注 1）借受施設を除く

（注 2）その他施設には消防施設 51,147 ㎡、上下水道施設 15,408 ㎡、交通施設 12,995 ㎡、防災施設 4,304 ㎡、駅周辺施設 3,842 ㎡が含まれています（面積は令和３年度の数値。端数処理を行っています。）

２　利用状況

新型コロナウイルス感染症の影響で施設全体の年間利用者数は減少しているものの、令和３年度は回復傾向がみられます。

図　公共建築物の年間利用者数過年度比較
（令和元（2019）年～令和３（2021）年度）

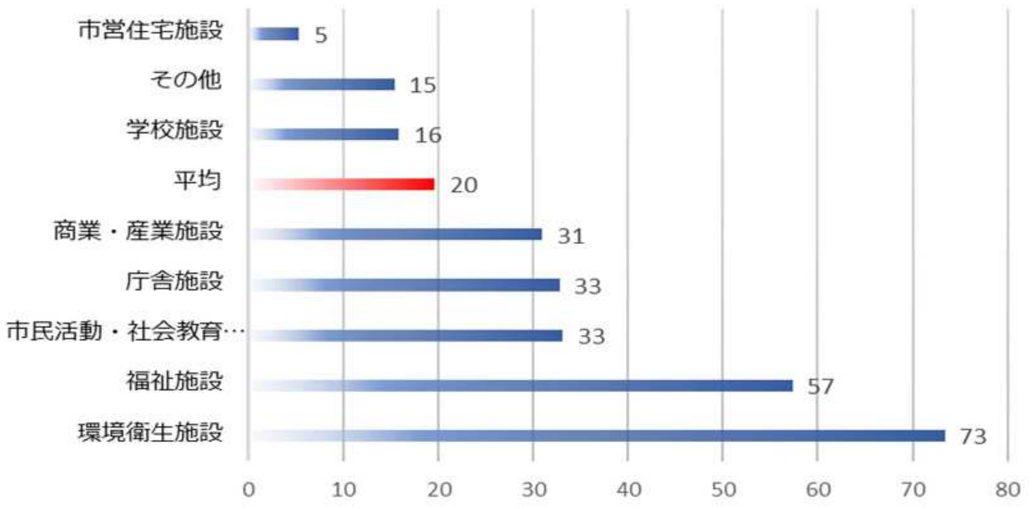


3　コスト状況（１㎡あたりのコスト状況）

（１）１㎡あたりのコスト内訳

大分類ごとの１㎡あたりのコスト平均は約２万円となっています。（解体・新築関連経費、大規模改修費を除く）。施設分類別に見ると「環境衛生施設」が約７万３千円、「福祉施設」が約５万７千円となっています。

図　公共建築物にかかる１㎡あたりのコスト内訳（令和３（2021）年度決算、企業会計除く）

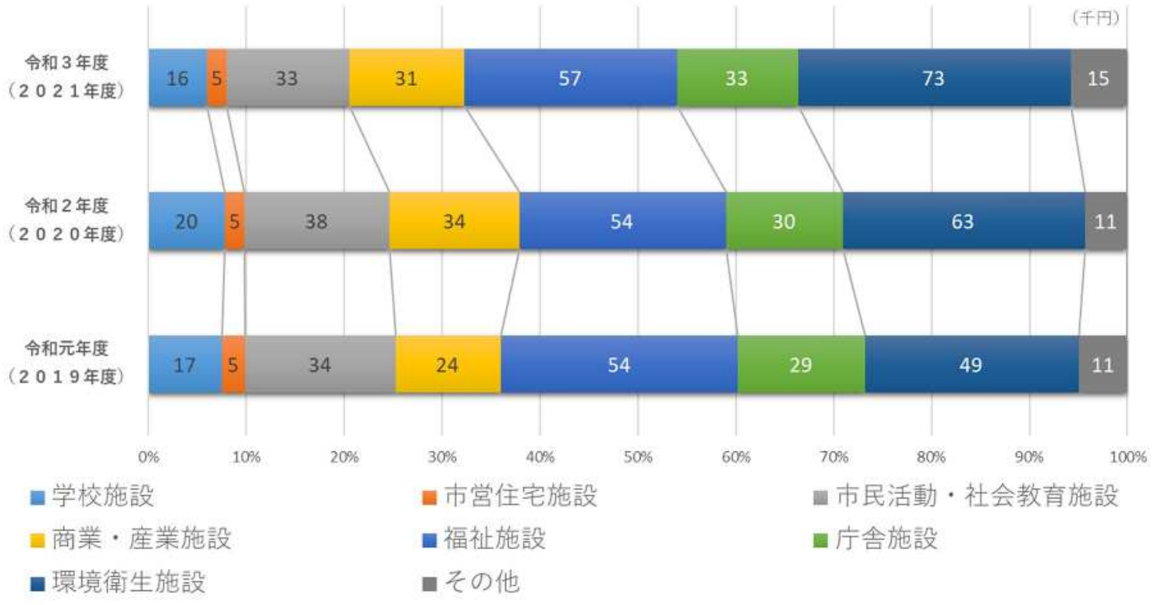


（注１）借受施設の賃借料も含む
（注２）解体・新築関連経費、大規模改修費を除く

（２）１㎡あたりのコスト分類別過年度比較

過去３年間の状況を大分類ごとに見ると、「福祉施設」、「環境衛生施設」がそれぞれ約２割、「市民活動・社会教育施設」、「商業・産業施設」、「庁舎施設」がそれぞれ約１割を占めており、３か年とも同様の傾向にあります。

図　公共建築物にかかる１㎡あたりのコスト分類別過年度比較（各年度決算、企業会計除く）



（注１）借受施設の賃借料も含む

（注２）解体・新築関連経費、大規模改修費を除く

第２章　市民利用施設の中分類ごとの過年度比較

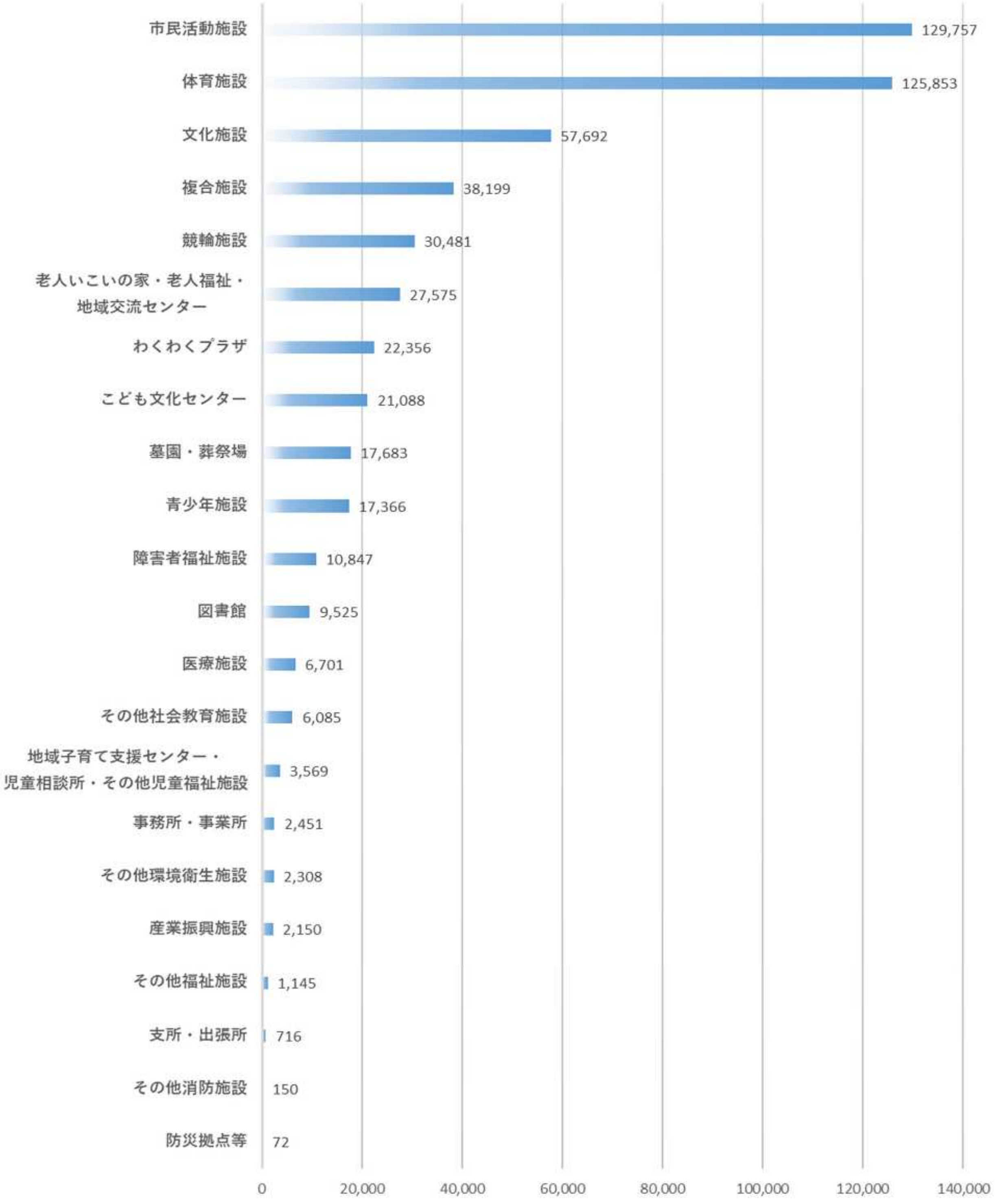
１　延床面積

（１）中分類別延床面積

令和３年度時点の中分類施設（市民利用施設）を延床面積の大きい順に並べると以下のような順番になります（中分類の具体的な施設の例については２ページを御参照ください）。

図　市民利用施設の中分類別延床面積（令和３（2021）年度決算、借受及び企業会計除く）

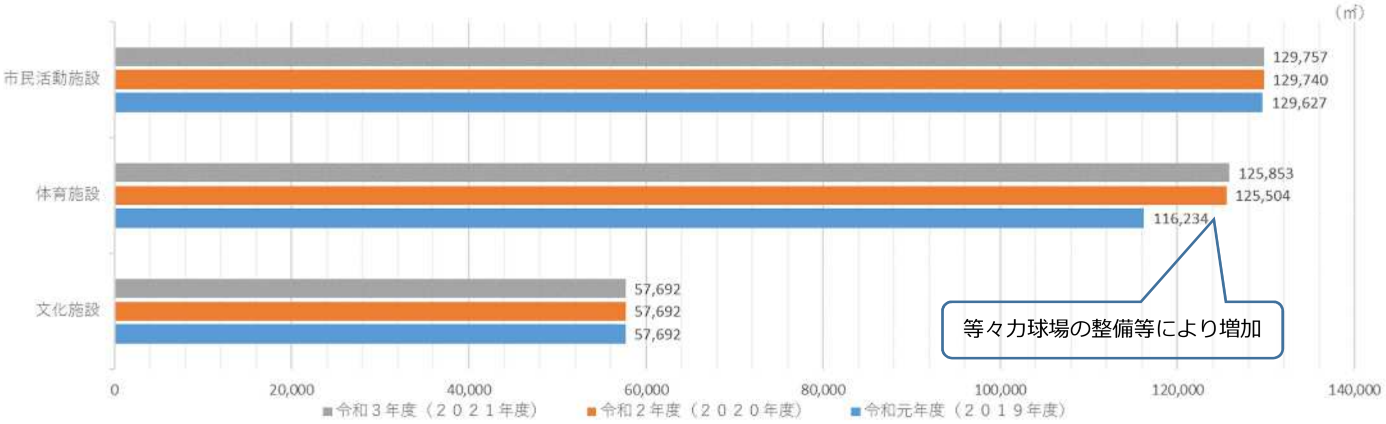
（㎡）



（２）延床面積の大きい主な市民利用施設の延床面積過年度比較

令和３年度時点で延床面積の大きい上位３施設をみると、「体育施設」が等々力球場の整備等により増加していますが、「市民活動施設」及び「文化施設」の変化は見られませんでした。（市民活動施設の例：市民館・労働会館・総合福祉センター、体育施設の例：スポーツセンター・球技場・プール、文化施設の例：川崎シンフォニーホール・青少年科学館・藤子・Ｆ・不二雄ミュージアム）

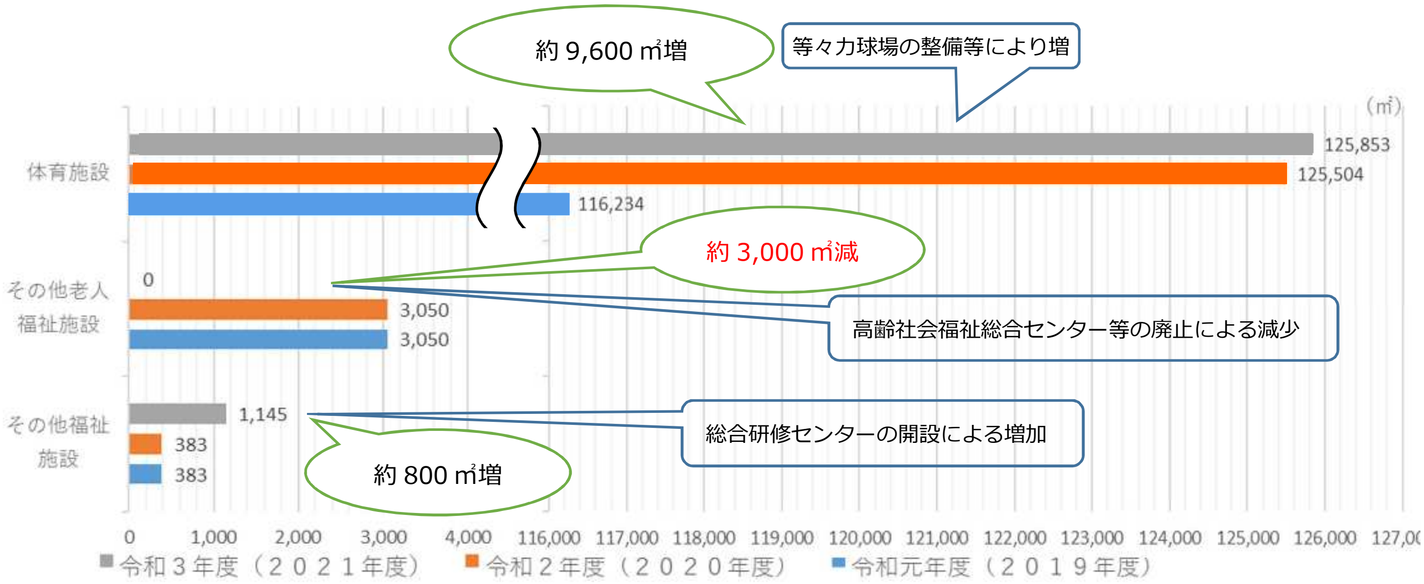
図　市民利用施設の中分類別延床面積過年度比較（令和３年度延床面積上位３位を掲載）
（令和元（2019）年～令和３（2021）年度決算、借受及び企業会計除く）



（３）増減の大きい主な市民利用施設の延床面積過年度比較

延床面積の令和元年度・令和３年度比較により増減の大きい上位３施設を見ると、「体育施設」が等々力球場の整備等により増加、「その他老人福祉施設」が高齢社会福祉総合センター及び総合ケアセンターの廃止により減少しています。また、「その他福祉施設」が総合研修センターの開設により増加しています。（その他老人福祉施設の例：かわさき総合ケアセンター・高齢社会福祉総合センター、その他福祉施設の例：福祉パル・総合研修センター）

図　市民利用施設の中分類別延床面積過年度比較（令和元年度・令和３年度比較による増減上位３位を掲載）
（令和元（2019）年～令和３（2021）年度決算、借受施設及び企業会計除く）



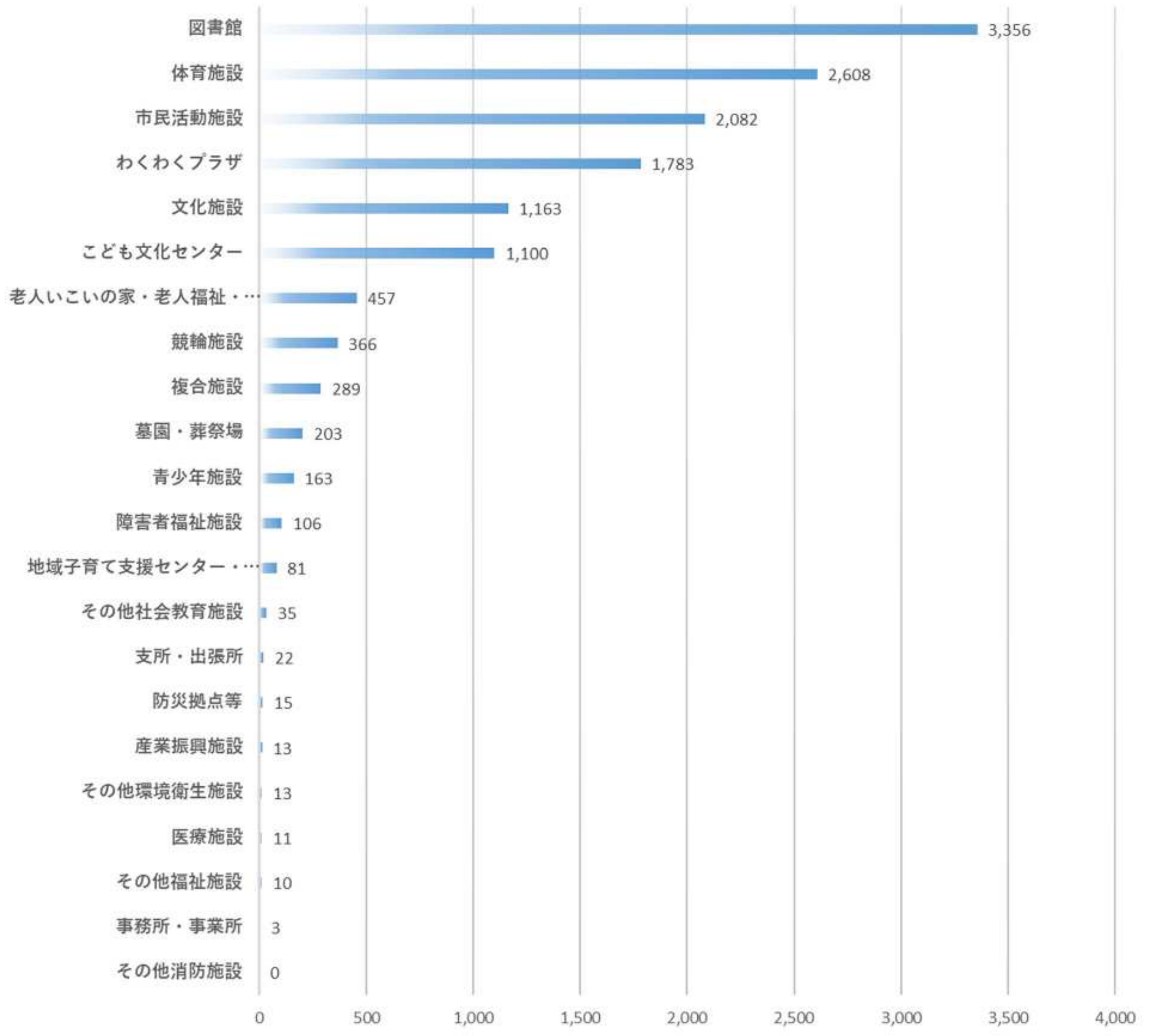
２　利用状況

（１）中分類別年間利用者数

令和３年度時点の中分類施設（市民利用施設）を年間利用者数の多い順に並べると以下のような順番になります（中分類の具体的な施設の例については２ページを御参照ください）。

図　市民利用施設の中分類別年間利用者数（令和３（2021）年度、借受施設及び企業会計除く）

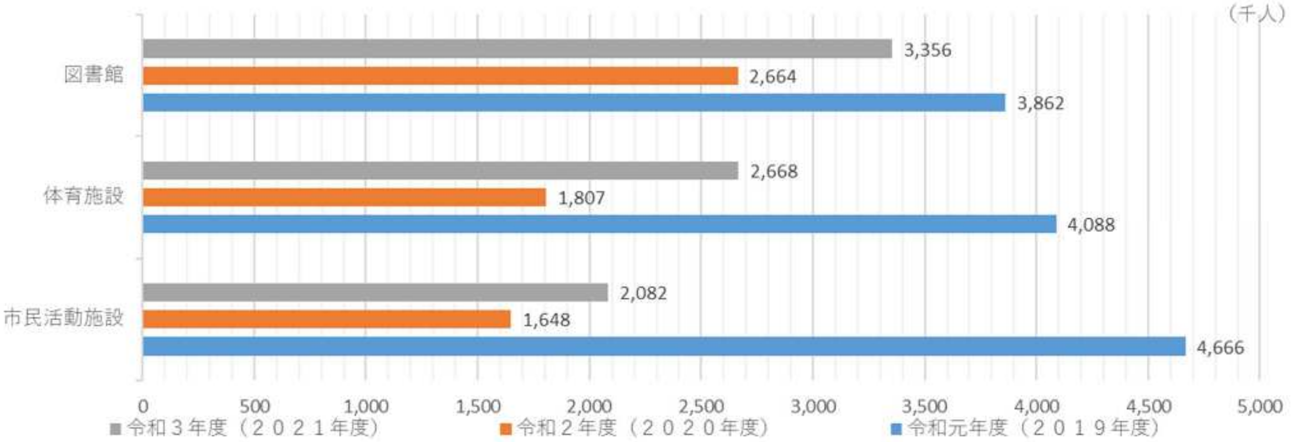
（千人）



（２）利用者数の多い主な市民利用施設の年間利用者数過年度比較

令和３年度時点での年間利用者数の多い上位３施設をみると、「図書館」が最も多く、続いて「体育施設」、「市民活動施設」の順に並んでいます。新型コロナウイルス感染症の影響で施設全体の年間利用者数は減少しているものの、令和３年度は回復傾向がみられます。また、図書館は、他の２つの分類に比べ、令和２年度の利用者数の減少幅が小さい特徴が見られます。

図　市民利用施設の年間利用者数（令和３年度利用者数上位３位を掲載）
（令和元（2019）年～令和３（2021）年度、借受施設及び企業会計除く）

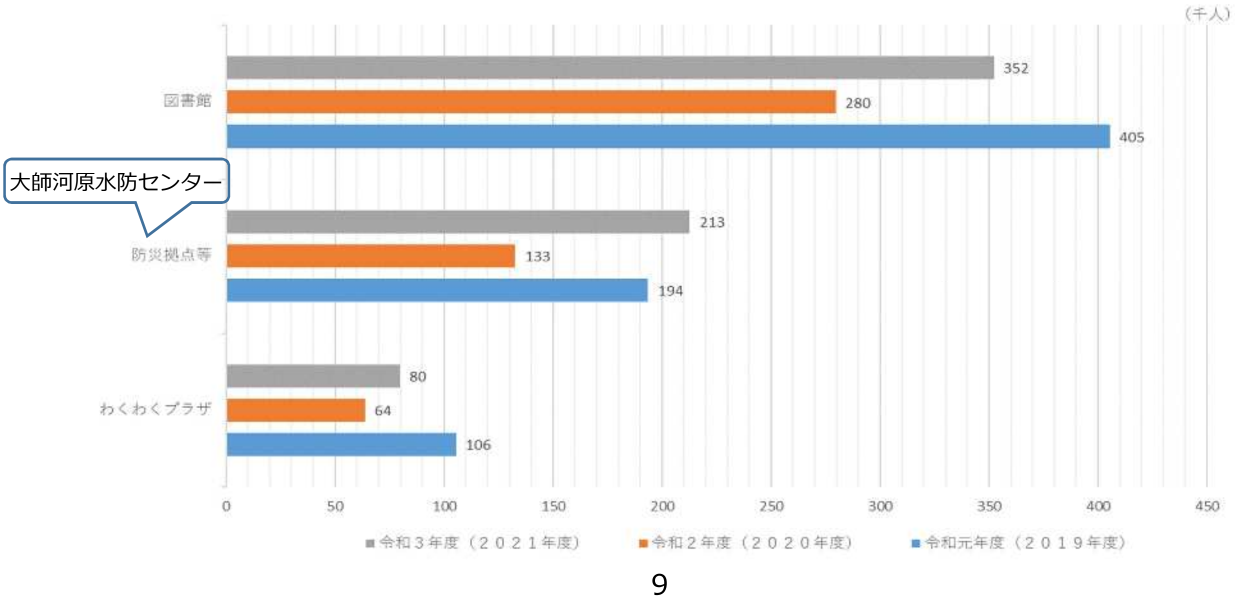


（３）利用者数の多い主な市民利用施設の１㎡あたり年間利用者数過年度比較

公共施設には、「等々力陸上競技場（約 43,763 ㎡）」のような大規模な施設から、「大師河原水防センター（約 72 ㎡）」のような小規模な施設まで様々な建物があるため、１㎡あたりの年間利用者数の比較を行いました。

令和３年度時点で１㎡あたりの年間利用者数の多い上位３施設をみると、「図書館」が最も多く、続いて「防災拠点」、「わくわくプラザ」の順に並んでいます。「防災拠点等」は大師河原水防センター（大師河原干潟館）のみが対象となっており、平常時は環境や防災、地域の歴史の学習施設として活用されており一定の利用者がいること及び施設の規模が比較的小さい（約７２㎡）ことから、数値が比較的大きくなっています。

図　市民利用施設にかかる１㎡あたりの年間利用者数（令和３年度利用者数上位３位を掲載）
（令和元（2019）年～令和３（2021）年度、借受施設及び企業会計除く）



３　コスト状況（１㎡当たりのコスト状況）

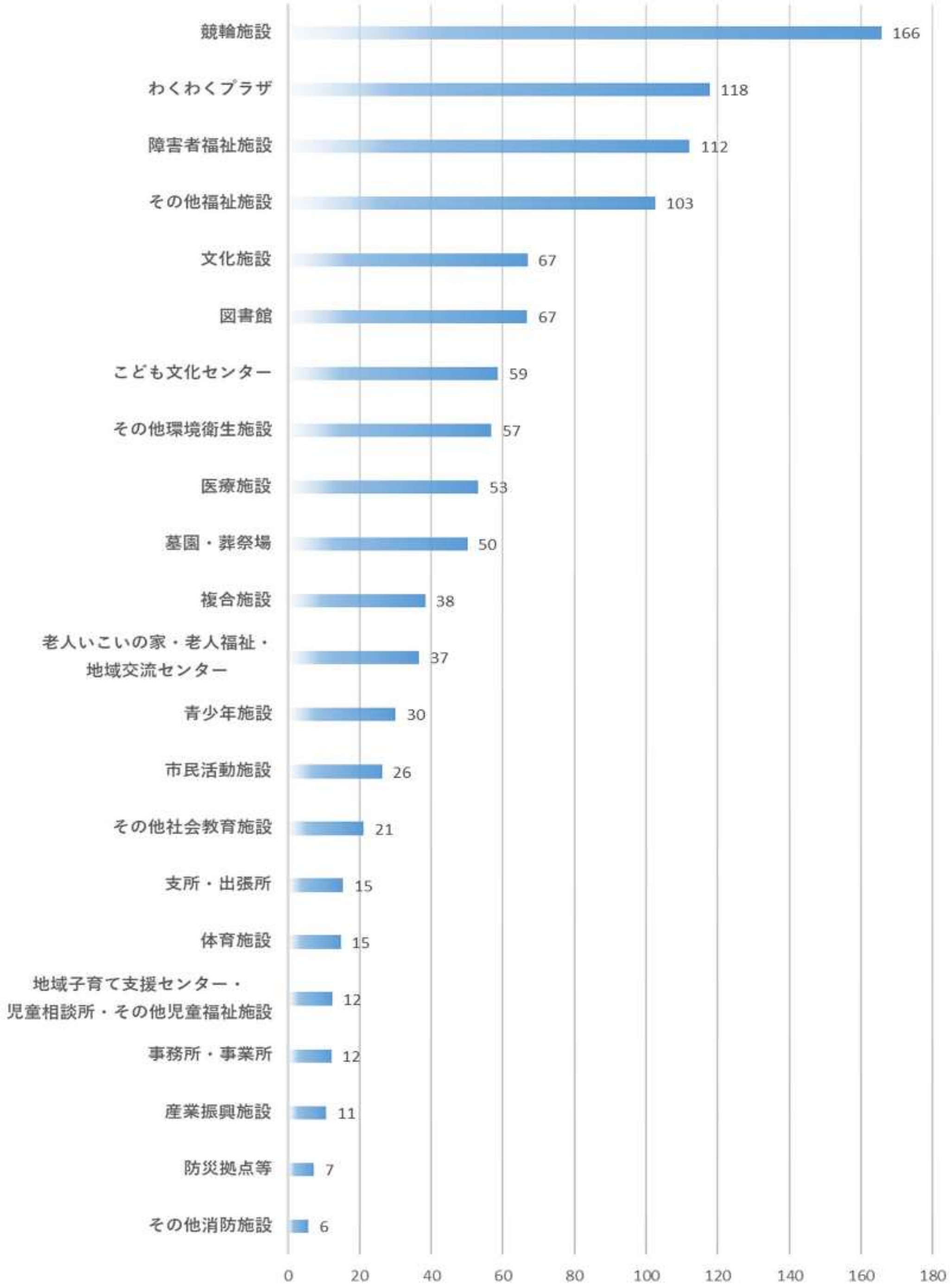
（１）中分類別１㎡あたりコスト状況

令和３年度時点の中分類施設（市民利用施設）を１㎡当たりコストの高い順に並べると以下のような順番になります（中分類の具体的な施設の例については２ページを御参照ください）。

図　市民利用施設の中分類別１㎡あたりコスト状況

（令和３（2021）年度決算、借受施設及び企業会計除く）

（千円）



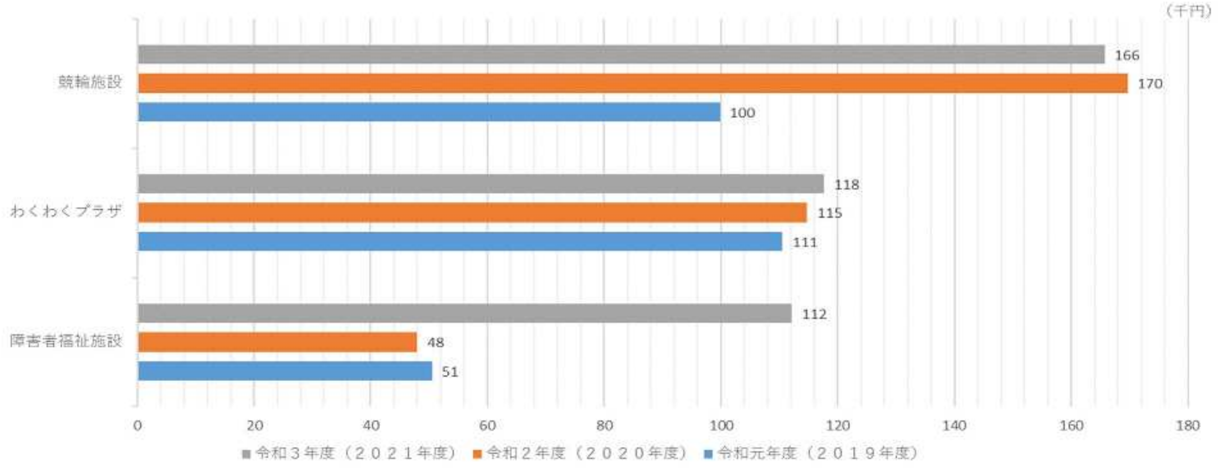
（注）解体・新築関連経費、大規模改修費を除く

（２）コストの高い主な市民利用施設にかかる１㎡あたりコスト過年度比較

令和３年度時点で１㎡あたりコストの高い上位３施設でみると「競輪施設」が川崎競輪場の照明改修等により増加、「わくわくプラザ」では指定管理料の増額による増加、「障害者福祉施設」が中部リハビリテーションセンターの体育館改修等により増加しています。（障害者福祉施設の例：リハビリテーションセンター・障害者情報文化センター）

図　市民利用施設にかかる１㎡あたりコスト（令和３年度金額上位３位を掲載）

（令和元（2019）年～令和３（2021）年度決算、借受及び企業会計除く）



（注）解体・新築関連経費、大規模改修費を除く

（３）増減の大きい主な市民利用施設の１㎡あたりコスト過年度比較

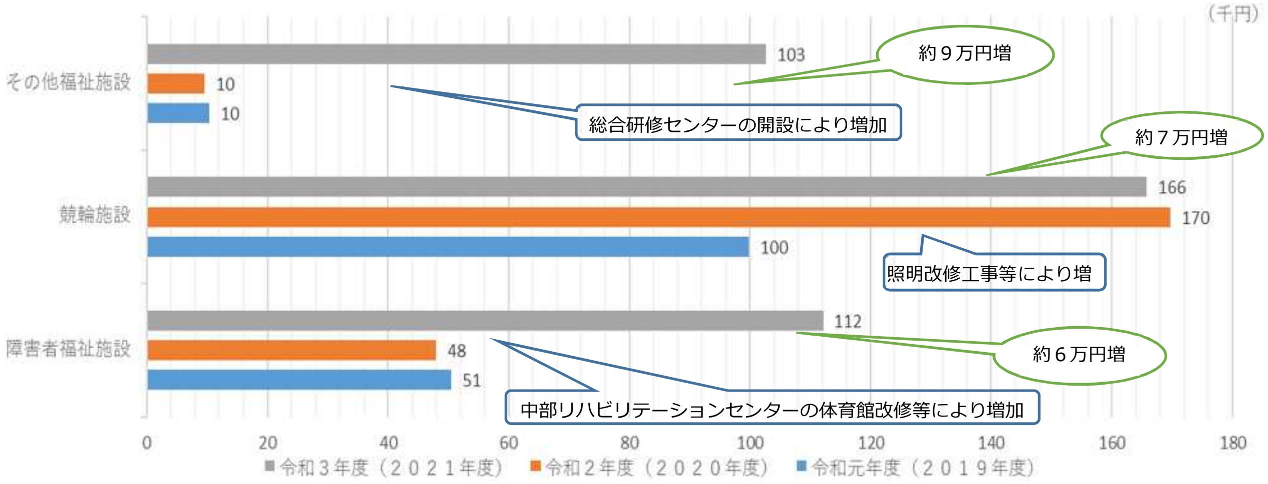
令和元年度・令和３年度比較による１㎡あたりコストの増減の高い上位３施設でみると、「その他福祉施設」が総合研修センターの開設により増加、「競輪施設」が川崎競輪場の照明改修等により増加、「障害者福祉施設」が中部リハビリテーションセンターの体育館改修等により増加しています。

※　コスト状況については、支出のみの把握になっています。また、競輪施設などのように特定財源で賄われているような施設もあります。

図　市民利用施設にかかる１㎡あたりコスト

（令和元年度・令和３年度比較による増減上位３位を掲載）

（令和元（2019）年～令和３（2021）年度決算、借受及び企業会計除く）



（注）解体・新築関連経費、大規模改修費を除く

COLORS, FUTURE! ACTIONS
KAWASAKI 100th

Colors, Future!
いろいろって、未来。
川崎市

川崎のどんなところが好きですか。

お気に入りの場所。ほっとするまちの仲間。
ひとりひとりの“好き”をつなぎ、かけ合わせて、
いっしょに川崎を育てていこう。

このまちに暮らし、このまちを発展させてきた
たくさんの人たちに感謝を抱きながら、
あたらしい川崎を未来の人たちへとつないでいこう。

いろいろな人たちが集まる川崎だからこそ、
多様で多彩なアクションを、つぎつぎと。

100年目の川崎市ではじまるColors, Future! Actions。
“好き”があふれるまちづくりを、さあいっしょに。

川崎市公共施設白書（分析編）
令和３（2021）年度版
令和６(2024)年３月

（問い合わせ）
川崎市　総務企画局　公共施設総合調整室
ＴＥＬ　０４４－２００－１２２６
ＦＡＸ　０４４－２００－３６２７
E-mail　17koukyo@city.kawasaki.jp